助成事業実施報告書

2025 年　　4 月　　25 日

助成事業実施報告書

団体名 一般社団法人東海福祉協会 ちいき食堂厨
代表者・役職名 氏名 代表 木全 奈穂

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書（精算報告書以外）は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真（2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します）を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

ちいき食堂厨　～人と人とのつながりを大切に～

2. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可）　300文字程度

私たちはただおなかを満たすだけの食堂にとどまらず、プラスワンの活動を取り入れながら、人と人とのつながりを大切にし、参加者の「心も満たす」場所でありたいと活動をしています。その活動の一つにオカリナ演奏会、座ってできる健康体操教室、こどもクッキング、キッズマルシェや講演会を企画しています。それぞれの地域で活躍している方や専門の知識を持った方をお招きして、育児相談、栄養相談、発達支援の相談をする場所を提供しようと考えています。「話を聞いてくれる人がいる」「必要とされる場所がある」「おなかいっぱいになるところ」そういう場所になるよう整えていきます。これから継続的にいつでも相談できる場所として開設を検討し、足を運ぶきっかけになるといいなと思っています。

また、普段は家族で外食になかなか行けない障害をお持ちの子とその家族に、午後からの時間を区切って食事を提供する日を設けたいと思います。何も気にせず外食ができ、保護者が食べている間は保育士や支援員が見守ることを考えています。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』　300文字程度

【定期開催】ちいき食堂　実施回数 14 回　参加者数　延べ 2380 人（うちこどもの人数 626 人）
【不定期開催】夏休み弁当配布（週 1 回金曜日）6 回
【イベント】「ほっこりまつり　～人と人とのつながりを大切に～」12 月 15 日
12 月には地域で子ども食堂などの居場所づくりの活動に関わる団体に声をかけ、「ほっこりまつり」を開催した。当初は小規模での開催を考えていたが、内容を一部変更し行政とともに進め、予定していたより大きなイベントになった。（来場者数 1200 人）私たちのこの活動を知ってもらい、活動団体や地域住民と「つながる」ことを目的とした。誰でも参加できるお祭りのような雰囲気を作り、気軽に参加できる「ほっこりまつり」を開催しネットワークが広がった。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など　300文字程度

一般的に「こども食堂」という名称には間違った偏見もあり本当に支援を必要としている人が利用できずにいる問題に直面している。「誰でも参加できる場所」「話を聞いてくれる人がいる」「おなかいっぱいになるところ」「必要とされる場所」であるところだと知ってもらうことが大切だ。同時に孤独孤立に悩む方を取り残さない活動を続け、これからの地域資源を大いに盛り上げ地域活性化につなげていきたい。

現在登録ボランティアさんが高齢者も含め 40 人、さらに高校生以下の「子どもサポーター」の登録も 30 人を超えている。参加スタッフも「役割があること」「必要とされること」「この場所に来ると笑顔になれること」を繰り返し、「またいきたい」と思える場所になるように進めていく。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

孤立、孤独を防ごう ほっこりまつりで交流

春日井、1000人訪れる

住民の孤立や孤独を防ごうと地域の団体や企業が集まるイベント「ほっこりまつり」が15日、春日井市藤山台の西藤山台運動交流ひろば体育館とにぎわい施設「ノキシタプレイス」であった。市内外から20の企業や団体が参加し、10代から80代までの約千人が訪れた。

幅広い世代の来場者でにぎわったほっこりまつり＝春日井市の西藤山台運動交流ひろば体育館で

同市の就労移行支援事業所のふらっぷとちいき食堂朝が主催。地域住民同士のつながりや、孤立や孤独の問題などに取り組む団体や企業などと接点を持つことで、必要なときに声を上げやすい地域をつくろうと開催した。

体育館では企業や団体がブースで弁当販売や福祉事業所の作品販売、フードパントリーなどをした。地域の子ども食堂を周知する展示もあった。屋外では、キッチンカーや無料の豚汁、子どもたちが楽しめるゲームがあった。来場者たちは楽しみながら、交流を深めていった。

参加者にアンケートを実施すると、約700人のうち3割程度が「孤立や孤独を感じたことがある」と回答したという。ふらっぷの藤井貴之所長は「本人たちが望まない孤立や孤独をサポートしたい。これからも継続していきたい」と話した。（長谷川和華）

大口町は19日、部下の職員との個人面談で知った内容を、他の職員に伝えるなどで精神的苦痛を与えたなどとして、課長が保護者とされる対応をしたことで、その職員をさらに精神的苦痛を与えたとして、監督責任がある総務部長も厳重注意とした。

ゴルフ高
専門スタッフ
ご自宅
査定
広告主募